みちのく
寄稿

（株）日水コン　東北支所
大久保　昌彦

― 水コン協東北支部 技術委員会のご紹介 ―

1. はじめに

私は、昭和 55 年 7 月に東京本社から東北支所に転勤し、仙台での勤務は 39 年目を迎えています。現在は支所長を仰せつかっていますが、定年間際までは下水道部門の技術屋としてお世話になってきました。

ところで水コン協東北支部は、平成 2 年 3 月に設立され、種々の活動がなされてきているところですが、小職が支部活動に関わったのは平成 24 年～25 年の対外活動委員会を始めとして、その後平成 26 年度からは副支部長兼技術委員会委員長として各種活動に参画し、現在に至っています。

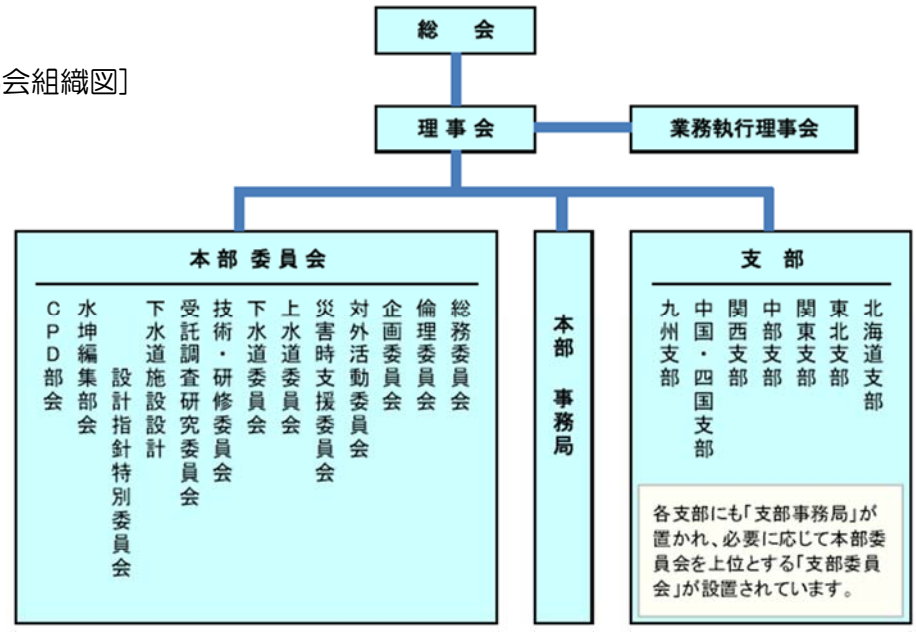
今回、みちのくWeb 版への寄稿依頼をお受けしたことを契機として、東北支部の技術委員会について、活動内容等を含めまして、皆様にご紹介したいと思います。

2. 各種委員会の構成概要

下の水コン協組織図に示すように、本部に複数の「委員会」があり、各支部に各委員会委員が割当てられています。そして東北支部の場合は、支部の中で委員会形式をとっているものとして、本部の総務委員会を上位とする“支部総務委員会”と、本部の技術・研修委員会を上位とする“支部技術委員会”の二つの委員会が設置されています。

東北支部の会員数は現在 20 会員ですが、このうち 9 会員が総務委員会に、11 会員が技術委員会に属しています。

［協会組織図］



［東北支部 委員会の構成会員］

平成 30 年度現在

総 務 委 員 会	技 術 委 員 会
○（株）ＮＪＳ	○（株）日水コン
（株）アスコ大東	（株）エイト日本技術開発
（株）三協技術	オリジナル設計（株）
（株）東洋設計事務所	協和設計（株）
日本工営（株）	（株）三水コンサルタント
日本水工設計（株）	新日本設計（株）
（株）日本水道設計社	セントラルコンサルタント（株）
パシフィックコンサルタンツ（株）	（株）東京設計事務所
（株）復建技術コンサルタント	（株）ドーコン
	日本シビックコンサルタント（株）
	（株）三木設計事務所

※最上段○印が、各委員長会員。以下、50 音順。

3. 技術委員会の概要

3-1. 技術委員会の役割と主務

技術委員会は、当協会の会員各位を始めとして、上下水道事業に関連する皆様の技術力・マネジメント力の向上を目指した活動を担うことを役割とし、協会の事業区分で言えば、「育成事業」及び「資質向上事業」に該当する活動を行うことを主務としています。各事業区分に該当する具体の活動内容は以下の通りです。

『育成事業』‥‥　各種技術講習会関連

①本部提案型講習会

本部の技術・研修委員会が推奨するテーマから選択して開催するもので、公開型（会員のほか各事業体等を対象）で参加者を募集して開催する。

②実務者研修・技術講習会

主に支部技術委員会にて選定したテーマ（設計･施工に係る情報提供や、本部提案型に準ずる技術テーマ）について開催するもので、公開型開催。

③講師の派遣

他の協会や事業体等からの要請に応じた講師派遣。講師はテーマによって支部会員のほかに本部事務局を通じて本部の各委員会の推薦により調整する。

『資質向上』‥‥　記念講演会、研修会、現場見学会関連

①記念講演会

支部の全体協議会後に行われることが多い記念講演。依頼講師とテーマ案は

主に支部技術委員会で検討し、支部事務局並びに支部運営委員会（幹事会）の了解を得て実施。会員限定型で開催。

②次代を担う技術者研修会

会員（技術・事務職問わず）としての共通課題を題材とした意見交換と発表会を通じ、自己の見聞を広めると共に、他社会員との交流機会とすることを目的とする。会員限定開催。

③技術見学会（宿泊コース）・現場見学会（日帰りコース）

水の制御、利活用、再生等に係る施設の見学を通して知見を広め、技術力の向上と会員相互の親睦を図ることを目的とする。会員限定開催。

これらの活動に係る開催要領（講習テーマの選定、日程調整、各委員の役割分担等）については、年３回開催される支部技術委員会で協議の上、調整を進めて決定しています。また、これらの各活動は、水コン協継続的専門能力研鑽（CPD）制度を活用した CPD 認定プログラムとして実施しています。

3-2. 年間スケジュール

上記に示した各活動時期は、従前の開催要領を踏襲している講習会等の“定例型”と、外部からの要請に対応する講師派遣や、見学適時が限られる施工現場見学会等の“随時型”に分かれています。年３回開催される支部技術委員会並びに、年４回開催される支部定例の運営委員会（各委員会の上位の幹事会）開催日程との関係は以下のとおりです。

〔第１回運営委員会　４月〕

【定例型】
- 「記念講演」---------- 例年 ５月開催（全体協議会同日）

《第１回 支部技術委員会　６月》

- 「本部提案型講習会」---------- 例年 ７月開催（午後半日）

〔第２回運営委員会　８月〕

《第２回 支部技術委員会　９月》

- 「実務者研修・技術講習会」----- 例年 10 月開催（1 日）
- 「次代を担う技術者研修会」----- 例年 11 月開催（午後半日）

〔第３回運営委員会　11 月〕

《第３回 支部技術委員会　１月》

〔第４回運営委員会　２月〕

【随時型】
- 「見学会」---------- 工事工程上の見学適時の期間内等
- 「講師の派遣」---------- 派遣要請元の指定年月日

3-3. 各活動の開催事例（今年度の活動を振返って）

次に、今年度にこれまでに実施した諸活動の開催事例について、以下に紹介します。

(1) 記念講演

今年度の「支部全体協議会」の記念講演として、以下の内容で開催されました。参加会員数は 87 名と多数の会員が聴講されました。

・開催日時：平成 30 年 5 月 17 日（木）　16：00～17：00
・講演会場：ホテル白萩（3 階：高砂の間）
・演　　題：「みやぎ型管理運営方式」について
・講　師：宮城県企業局 水道経営管理室 水道経営改革専門監 田代 浩次 様

(2) 本部提案型講習会

今年度は、13 社 55 名の協会員に加え、自治体関係 12 団体から 49 名のご参加をいただき、計 104 名の参加があり、盛会のうちに終了することが出来ました。

・開催日時：平成 30 年 7 月 12 日（木）　13:20～16:50
・講演会場：宮城県民会館（東京エレクトロンホール宮城）6 階 601 会議室
・講習内容：『下水道施設の耐震計算例（2015 年版）質疑応答（Q＆A）説明会』
1)「処理場・ポンプ場施設編」
講師：(株) 東京設計事務所 東京支社 施設第１グループ
グループマネージャー　戸屋 和之　氏
2)「管路施設編（その１）」
講師：(株) エイト日本技術開発 東京支社 耐震・保全グループ
プロジェクトマネージャー　友納　弘　氏
3)「管路施設編（その２）」
講師：日本水工設計（株）　東京支社 管路施設部 設計一課
課長代理　小宮 善幸　氏

［支部長挨拶の様子］

［講習会の様子］

(3) 実務者研修・技術講習会

今年度は、18 会員 64 名の協会員に加え、自治体 10 団体から 13 名と非会員 4 団体（講師関係協会員）から 7 名のご参加をいただき、計 84 名の参加があり、盛会のうちに終了することが出来ました。

・開催日時：平成 30 年 10 月 12 日（金）　9:50～16:00
・講演会場：宮城県民会館（東京エレクトロンホール宮城）6 階 601 会議室
・講習内容：

～ *午前の部 （実務者研修）* ～

1）マンホール蓋の維持管理手法

『マンホール蓋の計画的な維持管理』

講 師　日本グラウンドマンホール工業会

〔日之出水道機器（株） 第 1 ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ統括ｸﾞﾙｰﾌﾟ

下水道ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞｸﾞﾙｰﾌﾟ ｿﾘｭｰｼｮﾝ東日本ﾁｰﾑ ﾏﾈｰｼﾞｬｰ〕　矢野 雅美　氏

2）マンホール本体の改築工法（更新・更生・防食）

『自立型マンホール更生工法 / 布設替え工法

（高強度・高耐久性下水道用管路資材）』

講 師　日本レジン製品協会

〔(株)東海ﾋｭｰﾑ管 ﾚｼﾞﾝ事業部 部長〕　舩戸 義仁　氏

『シートライニング工法 / モルタルライニング工法』

講 師　JER コンクリート補改修協会

〔日本ｼﾞｯｺｳ(株) 執行役員 技術企画部 部長 〕　井上 敬介　氏

～ *午後の部 （技術講習・特別講演）* ～

1）【先進的な官民連携施策の予定事例（上工下水コンセッション）】

『みやぎ型管理運営方式について』

講 師　宮城県企業局 水道経営管理室 水道経営改革専門監

田代 浩次　氏

2）【下水道資源有効活用の取り組み事例】

『下水道と農業を結ぶビストロ下水道』

～鶴岡市での取り組みを中心に～

講 師　山形大学農学部 食料生命環境学科

（水土環境科学コース）　教授　渡 部　徹　氏

［午前の部 司会進行の様子］

［講習会の様子］

(4) 次代を担う技術者研修会

今年度の研修会は、13 会員 16 名の技術者に幹事・主催者側の 5 名を加え、計 21 名にて開催し、盛会のうちに終了することが出来ました。

・開催日時：平成 30 年 11 月 14 日（水）　　13:30～16:50
・講演会場：宮城県民会館（東京エレクトロンホール宮城）6 階 602 会議室
・研修内容：
【グループワーク】：A～D の 4 グループ 16 名、主催者側 5 名
グループワークのテーマ
テーマ 1：「ノー残業デーを徹底するためには」
テーマ 2：「世代を超え、社内のコミュニケーションを活性化するには」
テーマ 3：「若手技術者に必要なスキル」
【事例講演】
演　題：「私の下水道暦 40 年」
講　師：(株)日水コン東北支所　　大久保 昌彦 氏

［支部長挨拶］

［グループワーク（発表風景）］

［事例講演］

［終了後 記念撮影］

(5) 現場見学会（日帰りコース）

概要の項目で述べたように、支部の見学会の種類として、宿泊を伴う見学会（技術見学会）と、日帰りの現場見学会があります。技術見学会は、支部の予算の関係もあり隔年開催が標準となっています。昨年度（29 年度）は技術見学会の開催年度であり、北海道支部との合同見学会（一泊二日）を実施し、その様子は、この“みちのくWeb 版”にて、当時東京設計事務所東北支社長（現九州支社長）であられた村上さんによって詳しく紹介（H29.12.13 掲載）されています。

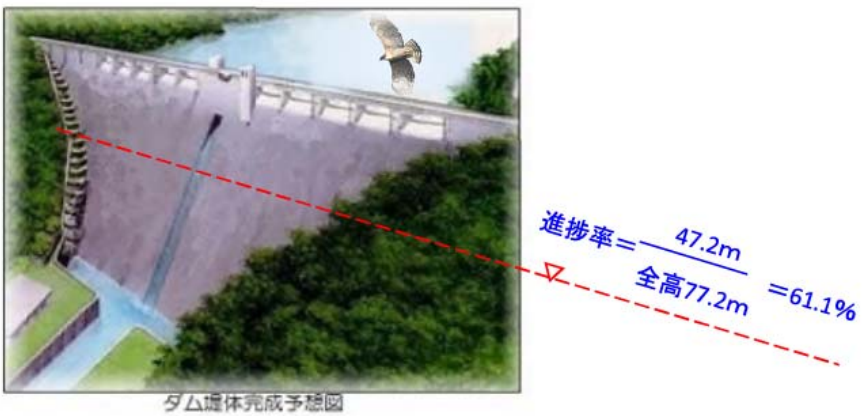
今年度は日帰りコースとして二つの現場見学会を企画し実施しましたので、それらの概要について、以下に紹介いたします。

1）岩手県　簗川（やながわ）ダム建設工事現場見学

・開催日時 ： 平成 30 年 9 月 6 日（木）　　13:00～15:30

・現場位置 ： 盛岡市川目地内

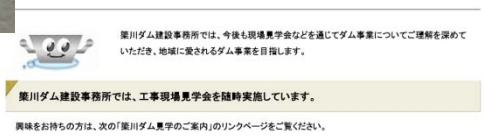
・現場概要 ：新規に岩手県が建設中の計画堤高 77.2m、堤頂長 249.0m、堤体積 230,000 ㎥、総貯水容量 1,910 万㎥の重力式コンクリートダム。見学当日の進捗率（全堤高に対する打設高）は 61.1%目標。



ダム堤体完成予想図

当日は、11 会員の 31 名が参加しました。

この現場見学会の様子は、岩手県のホームページにも掲載されています。



2）石巻市石巻港排水ポンプ場復興建設工事現場

・開催日時 ： 平成 30 年 11 月 8 日（木）　　13:30～15:00

・現場位置： 石巻市三河町地内

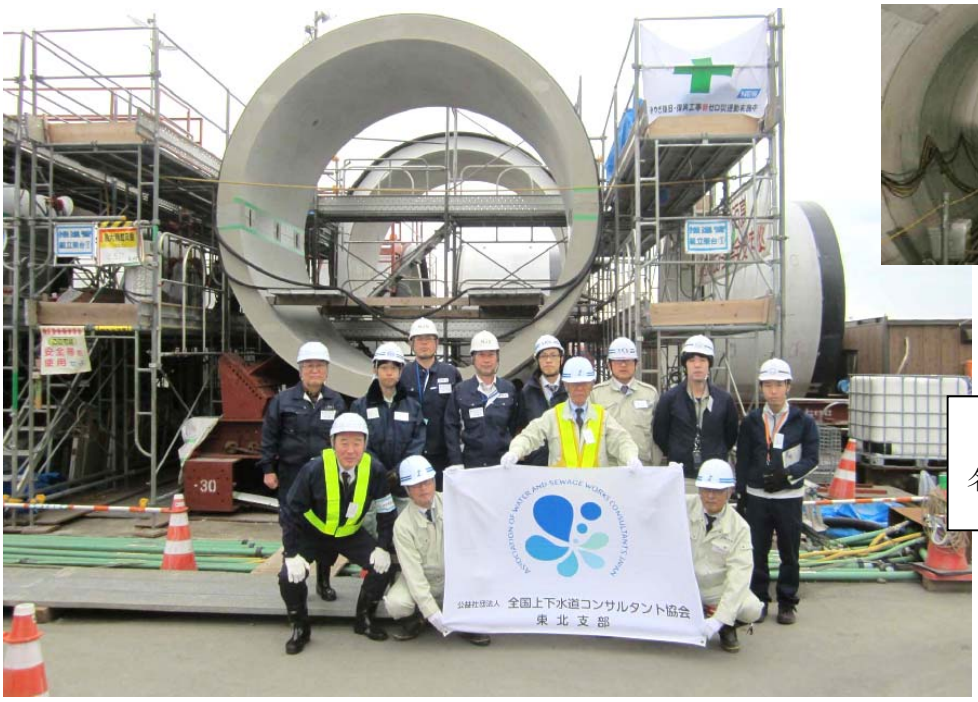
・現場概要: 石巻港排水ポンプ場から石巻港に雨水を排水するためのφ3500㎜ の放流渠推進工事（推進用ＨＰ：二分割組立ＲＣ）で、二分割推進管による工事では東北初。

推進工法は「土圧式推進工法」であり、路線延長が 455.5m の一部曲線施工（Ｒ＝200m）を含む１スパン、土被りは 7～8.5 mです。見学当日の進捗は、昼夜連続作業で約 200m掘進済み、日進量は約９ｍ（推進管約４本分）。

［半管吊降ろし状況］

［推進管内視察状況］

［推進管組立ヤード前で記念撮影］



［約 200m進捗］

当日は、6 会員の 12 名が参加しました。

(6) 講師派遣

例年、関係団体から水コン協に対して講師派遣の依頼を受けており、ご要望のテーマに応じて、支部あるいは本部から講師を派遣しています。

本年度は、当協会が一般社団法人から公益社団法人に移行したこともあってか、講師派遣依頼が多く、現時点で以下の４団体から要請を受けており、現在までに３団体に派遣済みとなっています。

ⅰ. 岩手県下水道公社（平成 30 年 7 月 5 日）　　於：岩手県都南浄化センター
ⅱ. 日本水道協会東北地方支部（平成 30 年 10 月 4 日）
　　於：ホテルニューカリーナ（盛岡市）
ⅲ. 秋田県生活衛生課・日本水道協会秋田県支部（平成 30 年 10 月 10 日）
　　於：秋田県庁第二庁舎
ⅳ. 青森県建設技術センター（平成 31 年 1 月 16 日～17 日の予定）
　　於：1/16 岩木川浄化センター、1/17 馬淵川浄化センター

以下に開催概要（予定含む）を示します。

1）岩手県下水道公社（平成 30 年 7 月 5 日）：開催済み

・講演テーマ　：（その 1）「管路施設のストックマネジメントについて」
（その 2）「下水管路調査技術の開発動向」

・派遣講師

その 1　：（株）日水コン下水道事業部東部ｿﾘｭｰｼｮﾝ部　　山本　整　氏

その 2：（株）日水コン下水道事業部東部事業ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ部　浦部 幹夫 氏

2）日本水道協会東北地方支部（平成 30 年 10 月 4 日）：開催済み

・講演テーマ　：「水道施設の長寿命化について」

・派遣講師　　：日本水工設計（株）東北支社　水道課　　千葉　克史 氏

3）秋田県生活衛生課・日本水道協会秋田県支部（平成 30 年 10 月 10 日）

：開催済み

・講演テーマ　：「上水道管路の耐震化計画について」

・派遣講師　　：（株）東京設計事務所 関西支社 水道ｸﾞﾙｰﾌﾟ　雑 賀　渉 氏

4）青森県建設技術センター（平成 31 年 1 月 16 日～17 日）：予定

・講演テーマ　:「下水道施設(機械・電気部門)に係るストックマネジメント」

・派遣講師　　:(株)ＮＪＳ　東部支社東京総合事務所

ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ部　増屋 征訓 氏

4．本部技術・研修委員会との関わり

以上が、東北支部技術委員会の概要と当委員会が主管となっている活動内容の本年度の事例ですが、最後に本部技術・研修委員会（以後、本部）との関わりについて触れておきたいと思います。

本部委員会は、各支部を代表する委員（東北支部では技術委員長の小職）で構成されており、当協会の「調査研究」、「育成」、「普及啓発」の各事業に関連する活動を担っています。加えて、水コン協の『ビジョン 2015－2025』実現に向けた“中期行動計画”について、本部委員会が主幹する行動計画について議論され、実行に移されつつあります。本部の定例委員会は年３回開催され、その中で各事業計画内容や中期行動計画に関する議論をもって、活動方針が定められています。

各事業区分毎の主な活動に向けた本部会議の概要並びに、本部が主幹する中期行動計画の概要は以下のとおりです。

～事業計画関連～

【調査研究】

・上下水道技術座談会　：本部主催で年１回開催されますが、そのテーマと出席メンバー等について調整を図ります。

・技術研修会　　：本部主催で年１回開催が標準ですが、テーマとその開催要領（ﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ方式、ｾﾐﾅｰ方式等）、講師依頼等について調整を図ります。

【育成】

・技術研究発表会　　：年１回開催されますが、発表会場の設営、司会進行等の役割分担について調整を図ります。なお、優秀発表賞は各委員による即日採点結果によって選定・表彰されます。

・本部提案型講習会　：本部提案型として推奨される複数のテーマについて調整（リストアップ）を図ります。これらのテーマから各支部が選定して講習会が開催されます。本部主催で開催することもあります。

【普及啓発】

・有効賞の推薦　　：当年度の技術研究発表論文並びに、会員の推薦を受けた他の会員論文を対象として、本部委員会委員の推薦により２編（翌年度表彰）を選定し、推薦します。

・新技術奨励賞の推薦　：当年度において、会員から推薦のあった他の会員による技術提案が、“新技術”として相応しいか、本部委員会委員の推薦によって選定します（翌年度表彰）。

～中期行動計画関連～

技術・研修委員会が主幹する行動計画は以下の中分類６項目があり、各支部が担当を受け持っています。東北支部の担当は、「イメージアップ活動」の一環とする“①業務成果のアピール”となっています。

［中期行動計画　行動項目と担当支部］

行動項目		担当支部
大分類	中分類	
イメージアップ活動	①業務成果のアピール	北海道支部、東北支部
新技術の開発	②新技術に関連するマニュアル整備	関東支部
	③新たな技術動向に対応するための異業種、事業体との意見交換	関東支部
異業種との新技術共同開発	④異業種との取組み内容	関東支部、中部支部
研修・講習会の開催	⑤研修	関西支部、中国･四国
会員の海外展開支援	⑥上下水道分野の ISO 規格作成サポート	関東支部、九州支部

5. おわりに

以上、東北支部技術委員会について紹介してきました。

改めて今年度のこれまでの活動状況を振返りますと、定例型の活動と随時型の活動、そしてその合間に支部技術委員会開催（年 3 回）、さらに本部会議（年 3 回）と中期行動計画への参画に加えて、支部運営委員会（幹事会）での報告（年 4 回）というように、１年を通してほぼ毎月のように委員会活動に関わっていることになり、とても充実した委員会であることが分かります。

水コン協は平成 27 年 6 月、“これからの上下水道サービスの担い手としての挑戦”をコンセプトとして、『ビジョン 2015-2025』を公表しました。そして、平成 30 年 4 月、『水コン協の活動領域の拡大と発展』並びに『会員の地位向上』に、より寄与するとの判断から“公益社団法人”に移行されました。このビジョンの実現と公益社団法人としての活動と関係業界の繁栄という理念実現に向けて、関係委員会各位が鋭意取組んでいるところです。

東北支部技術委員会では、講習会等の各種イベントを通して、当協会会員を始め、上下水道事業に関わる地方公共団体の皆様や民間技術者の皆様に対し、「適時の技術情報の提供と共有化」について積極的に支援し、「業界に関連する皆様のさらなる資質向上」のお役に立てるよう鋭意努めてまいりたいと考えています。

微力ながら、協会の理念実現のための諸活動の一翼を担うものとして、皆様のご理解・ご協力の下に、今後も継続してタイムリーなイベントを企画・開催してまいりますので、どうぞ多数ご参会下さいますようお願いいたします。

《あとがき》

今回、“みちのく”への寄稿依頼への対応として、皆様にはあまり知られていないであろう東北支部技術委員会を紹介するというテーマでまとめさせていただきましたが、遠慮なく拙い紙面を費やしてしまい、最後まで皆様のお目通しが叶うかどうか心配しています。

技術委員会の活動を振返りますと、充実感は高いものがありますが、その分、委員を含めて関係者の皆様に大きな負担をお掛けしている中、委員会の運営にご協力いただいておりますことに、委員長として深く感謝の意を表したいと思います。

一方、各イベントの無事終了後の関係者の達成感、開放感は、日常業務の区切りとは違って、なかなか得難いものがあると思っています。そして締めくくりの慰労会は、次回イベント開催への気力向上の糧ともなっています。

過去のイベント後の関係者慰労会の様子について、思い出の写真を紹介して当寄稿文の終わりとさせていただきます。

平成 30 年 11 月 26 日

［平成 26 年度 実務者研修・技術講習会後の講師を交えての懇談会にて　H26.10.24］